

## タマネギ



日本で栽培されるようになったのは意外に遅く、明治時代になってからだと言われています。一般的にタマネギと呼んでいる部分は根ではなく、葉の根元が養分を蓄え丸くなったもので、鱗茎(りんけい)と言われるものです。

### 作型

植え傷みさせると枯れやすいので、丁寧に植える。秋まきが最適で早まきすると、とう立ちしやすい。酸性土壌に弱いので、石灰を必ず施用する。

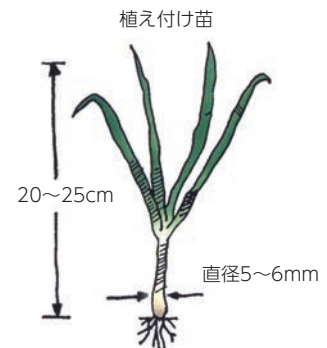
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき貯蔵						■	■				△		もみじ、さつき、ターボ レッドオニオン、ニューセブン

△：植え付け ■：収穫

### 畑の準備・定植

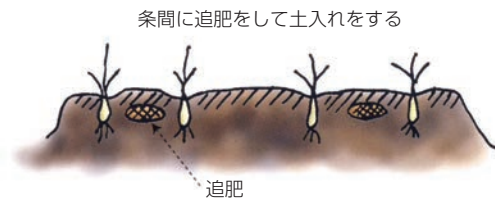
<b>土づくり 1a当たり</b>	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
<b>元肥 1a当たり</b>	
発酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

- 4条植え：畝幅135cm 条間24cm 株間12cm
- 育苗されている場合は苗取り前日に十分灌水して、できるだけ根を付けて苗を取る。
- 苗取りすれば、すぐ植え付けるようにする。
- 深植えにならないように注意!



### 追肥

- 1月下旬～2月上旬：追肥し、中耕を行う。
- 2月下旬～3月中旬：追肥し、中耕を行う。  
(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5～7kg/a)
- 病気を防ぐため、3月下旬以降は追肥しない。



### 防除

病害虫名	耕種防除
アブラムシ類 アザミウマ類	スミチオン乳剤 1,000倍 21日前まで 2回以内
べと病 灰色かび病	プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 7日前まで 3回以内

### 収穫

- 全体の50～80%が倒伏したら行う。
- 3～5日晴天が続いた後に抜き取り、半日から1日畝上で天日干しを行い、風通しの良い日陰につるして貯蔵する。



## 冬どり軟弱野菜の防寒対策

冬の寒さを乗り切るために、野菜の防寒対策をしっかりと行うことは大切です。

ホウレンソウ、コマツナ、シュンギクなどは、野菜のうちでも低温に強いほうで、気温0℃内外でも生育し、ホウレンソウはマイナス10℃にも耐える性質を持っています。従って、9～10月半ばまでに種まきしたものは、一般平坦地ならとくに防寒しなくても厳寒期に十分収穫できます。

しかし、寒冷地では防寒が必要ですし、一般の地勢でも冬季に枯れ葉のない軟らかな良質品を得るには、防寒対策を講じるのが効果的です。

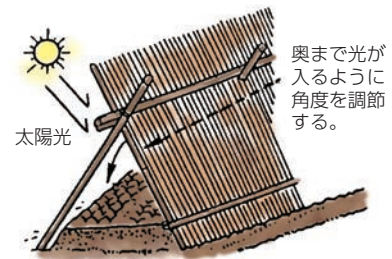
また、計画的にまきどきを遅らせて春先まで収穫しようとする場合にも、防寒が有効です。通常10月下旬以降に種まきするとき、特に効果が発揮されます。

防寒資材としては、昔は竹笹、ヨシズが専ら用いられました。これらが入手できればそれでもよいのですが、今では専ら、べたがけ資材（不織布類）、ネット（寒冷紗）、プラスチックフィルム（塩ビ、農ポリ）などが用いられます。

### ヨシズ覆い

ヨシズは昔からの保温栽培方法で、寒冷紗よりも保温力はすぐれています。

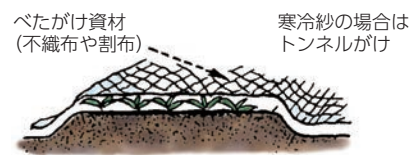
- 栽培床の北側に片屋根式の霜よけをかける。
- 陽光を最大限に取り入れるため、太陽の角度によって屋根の角度を変える。



### べたがけ

簡単な方法としては、寒冷紗や不織布、割繊維不織布などで覆う方法です。低温性のコマツナ、シュンギクなどの露地栽培よりはるかに生育が良く、冬でも良質品のものが得られます。

- べたがけは、支柱などを使わず不織布や割繊維不織布などを、直接地面または作物の葉の上に被せる。
- 極めて軽量で通気性が良く、簡単に利用ができます。
- 風に飛ばされないように土や石で押さえるようにしましょう。張り方が緩いと風に揺らされ、かえって作物を傷つけることがあります。



### ビニールトンネル

フィルムをトンネル状に覆えば、日中の温度上昇は格段に良いのでさらに高い保温力を得られますが、日中の温度が上がりすぎると、かえって低温障害を受けやすくなるので、穴を開けたり裾を上げたりして換気することが大切です。

早春まきのコカブ、ニンジンなど、春植えの果菜類などの生育が大変促進でき、早どりに有効です。

- トンネル用の被覆フィルムには、ポリエチレンよりも保温力の高いビニールが多く用いられている。
- 暖かい地域や低温性野菜ならポリエチレンでも良い。
- 裾を上げて換気をする場合は、急に冷たい風が入り込んだりしないよう、少しずつめくり上げながら換気を行う。

